

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 〒197-0826生沼243-9

TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、「住民こそ主人公」のあきる野市政実現をめざして!

2010.3.14 No.528 (毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は次の見解を発表しました。



6つの「い」がキーワード
- 塩漬・郷土・子育て・高齢・環境

白井市長の2010年度 施政方針と予算概要は...?

自らの失政を美辞麗句

で繕い 失敗した企業誘致を

国政で退場した「自民党政治」があきる野ではまかり通る

三月定例市議会、白井市長の施政方針が表明され、予算の概要も明らかになりました。その内容は、市民の待ち望んで

市民のくらし改善策乏しく

市はこの計画を去年九月に発表し、市民に意見を求めましたが、市民からは反対の投書が圧倒的だった計画です。形だけ市民の声を聞くポーズをとり、実際は強引にすすめる態度がみえ

市政方針では、旧秋川高校跡地の土地に企業誘致をすすめています。

失敗した企業誘致を またまた白井市長が

あきる野市の財政困難の元は白井市長の失政

「郷土の恵みの森事業」という名の新たな出費も

市は、どこにも売れず「塩漬け」になつて開発公社所有の山林を「郷土の恵みの森構想」といつて平成二十年度から二十二年度の三年間で、三十一億円の借金をして買戻し、公社の借金を減らすというばかげた市政運営をつづけています。

「郷土の恵みの森事業」という名の新たな出費も



「塩漬け」土地の菅生の荒れ地

自治体が一番心をくだかねばならない市民のくらし、安全・福祉・教育の充実への主だった施策が無いのが特徴です。全国各地で国民が経験した自民党政治の破綻、これがあきる野では反省されず、財政困難を「行政改革」の名で市民に各種補助金のカットでしわ寄せされています。

三月定例市議会の論議が注目されます。



たばた あずみ
子どもを寝かしつけるときに、絵本のほかに物語を読むようになってほしいと願っています。これまでいろいろ読みました。ガンバの冒険、大草原の大きな家シリーズ、長くつたのピピシリーズ…。いまはドリトル先生のシリーズ。月からの使いの巻です。巨大昆虫が登場した場面、むすめがぼつり「これって、ほんとのお話？」いやいや、それはないでしょう。「そうか、このお話は作り話か」納得した様子。

野良望
暖かい春の日かと思うと次の日は冷たい雨も混じって肌を刺す寒さ。春一番が待ち遠しい。▼自公に代わる新政権ができて、世界一危険な基地である沖縄・宜野湾市の普天間基地もなくせると期待したのに、与党のあちこち移設先探しの末、沖縄県内たらい回しになりかねない有様だ。普天間基地は住民を収容所に押し込めている間に基地をつくり、さらに銃剣とブルドーザーで村民を排除して拡張した無法なもの。無条件で撤去させるのが当然。▼春は待てば遅くなくても必ずやってくる。基地のない平和な沖縄は黙っていても実現しない。政府に本腰を入れた無条件撤去の対米交渉をさせてこそ道は開ける。▼沖縄と連帯したたかひが必要だ。西多摩でも20日(土)には「横田基地もいらぬ!市民交流の集い」(福生市民会館)が行われる。沖縄と連帯して基地のない日本をめざす世論と運動を広げよう。春風に乗せて!

連絡先は ☎550-6674

私もニューヨークの国際会議要請行動に参加します

鍼灸・指圧師
高橋 養蔵

私は、鍼灸、指圧師ですが、ある日、被爆者の方が治療に見え、「肩や胸や背中が痛くなったりすると、原爆の放射能のせいではと思う」と話していました。被爆者は、生涯その恐怖から逃れられないということでした。

その後、原水爆禁止あきる野協議会の活動を通じて、原水爆禁止世界大会in長崎大会に、参加。被爆者との交流会に出席しました。70歳代の男性が「自分が被爆者だと息子に、どうしても話すことが出来ず悶々としていたが、今年、この先

いつどうなるか解らないので、思い切った話したところ、『父さん知っているよ』と言われて、ほっとした」と話されていました。被害者である被爆者が、就職や結婚などで差別され、子どもたちも差別されることを恐れて、話すことが出来なかった。

原子爆弾を投下したアメリカ軍は、非難されず、被爆者が差別を恐れてひっそり、生きてきたとのこと、なんと理不尽なことでしょう。その為になんとしても役にたつたらと思い、ニューヨークで行われるNPT再検討会議で、各国代表に要請する行動に参加します。



駅頭での署名活動

あなたの未来のために「国際署名」にご協力を！

後援会便り

東地区後援会

春の日帰り旅行のお知らせ

- 4月21日(水)
- 出発・市役所AM7時30分
(臨時、地域内で停車します)
- 参加費・5,000円
- 行先・安曇野ちひろ美術館と奈良井宿散策



いわさきちひろ「やぎと男の子」1969年

☆他の後援会の方の参加もお待ちしています。
申し込み・片野坂 559-6468
・一戸 558-8274



絵手紙／瀬川和子さん・牛沼在住

川柳

トヨタさん泣く気があればいじめませ
都マラソン津波をよそに能天気
年老いてラジオが友の深夜かな
マルクスが手を振る銭にがんばれど

蕎麦湯 蕎麦湯
松籟坊 松籟坊

3月7日・五日市後援会

咲・か・せ・た・い
「アンネのバラ」と
「ピース」を
バラの接木教室



アンネのバラ

グリーンアドバイザーの大和田宏次さんの「今日は平和を願う花『アンネのバラ』と『ピース』の二つの接木を勉強しましょう」で始まった。
参加者は7人。なれない手つきでナイフを握って悪戦苦闘。それでもなんとか終って、珈琲とケーキが出る。おまけに、応援に駆けつけたギターとハーモニカのミュージシャンによるミニコンサートが始まり、なんとも楽しい教室は賑やかなうちに終了しました。
秋には立派な花が咲きますように！



歴史探訪

第108回 地名考・乙津①



龍珠院

あきる野市の西端、養沢と戸倉に挟まれる形で大字・乙津があります。前項の戸倉と同様、山岳・丘陵をそって養沢川に沿う溪谷の地帯と云えます。面積が6.18km²、面積比8.43%で養沢・戸倉の半分以下です。人口は321人(275世帯)です。不思議なのは乙津地域内に養沢の飛地があり、五柱神社を中心として比較的広い地域が一ヶ所、その他に乙津北部に小さな狭い飛地が五ヶ所、計六ヶ所あります。旧秋川市でも上世継の中に下世継の飛地がありました。歴史、特に江戸期以降で合村・分村が繰り返えされてきた結果、分村に際し住民或いは集落と支配階級との何らかの争いが生じた結果でしょう。「風土記稿」は広大な面積を持つ戸倉から寛文九年(一六六九)に乙津が分村したと記しています。乙津を含め養沢は広大な山村ですから、村落もまばらで家作も飛々であったでしょう。そして豪農に近い有力農民も居たとすると、分村に当たってこれを一括し序列化する事に対し摩擦が生じたという研究報告があります。

「乙津」の地名は既に天正二年(一五七四)にあったと佐久間文書などに記されています。大和国・源兼信が当地に移住し、乙津の姓を名乗りながら代々の名主を勤めたと云われています。(続く)
草花・木崎秀治

俳句

訪ねゆく梅の香りの友の家 (るり子)
薄水の泥にまみれて割られけり (照代)
大病の癒えて故郷へ梅日和 (つや)
見舞うたび友遠くなる冬の星 (かほる)
空の青老梅は幹漣らせ (淑子)
初雪や樹々の梢を白く染め (静子)
一瞬に消えし露や露店風呂 (和恵)
立春の空を写して光る海 (勝代)
雪解や我れの決意のままならず (富)
一人また族に女の子初雛 (秀治)